

学校教育目標

折尾西地域のもつ特性をもとに、「知・徳・体の調和のとれた自主的精神に満ちた心豊かな子」の育成に努める。

きずな

学校だより 第10号

令和6年12月13日

北九州市立折尾西小学校

校長 木下 経之

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

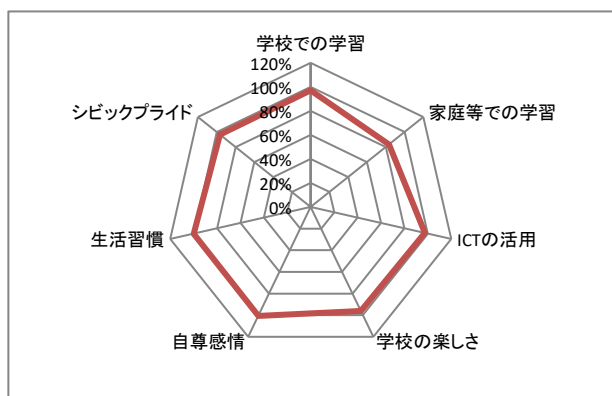
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	○全国平均を全体的に上回っている。選択式の問題よりも短答式・記述式の問題のほうが全国平均との差が大きく、書く活動を日常的に取り入れてきた成果がうかがえる。 ○「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率は全国平均を上回っているが、漢字の書き取り問題の一部で、正答率が全国平均を下回るものがあった。
算数	○「知識・技能」に関する内容、「思考力・判断力・表現力等」に関する内容ともに、全国平均をやや下回っている。特に「データの活用」の領域において課題が見られる。 ○全体的な無解答率は全国平均を下回っており、問題解決に向けて粘り強く取り組む姿勢が少しずつ定着してきている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析

○PC・タブレットなどのICT機器の活用について、「分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」の肯定的回答率が全国平均よりも高い。一方で、「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」や「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」については、全国平均より約10%下回っている。ICTの活用が情報収集やタイピング練習などの個人作業に偏っていると考えられ、グループでの活用や他者への情報発信における積極的活用が課題といえる。

○休日に家庭等で1日あたりに1時間以上学習する児童の割合は、全国平均とほぼ変わらない。一方で、平日については全国平均より約10%下回っている。また、平日にSNSや動画視聴、テレビゲームに2時間以上費やす児童の割合は全国平均を上回っており、携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方を家族と決めていない児童の割合も全国平均より高かった。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 各担任が「『学びの質を高める授業』づくり5つのポイント」の「『考えを深める』話し合う活動と書く活動」を特に意識し、ペア学習やグループ学習の導入、自分の考えを自分の言葉で書く場面の設定を進める。
- 児童が活字に触れて言葉の力を一層高められるよう、音読や読書に関する取組の充実、辞書を用いた意味調べの推進を図る。
- 単元末に復習プリントやドリルアプリを活用し、基礎的な内容を確実に理解できるようにする。また、応用力を高めるために、別解を考えたり、生活場面での活用を想起したりするよう促す。
- グループ活動で多様な考えの共有や比較、他者への情報発信を円滑に進められるよう、GIGA端末を積極的に活用する。また、ICTサポーターによる支援を進め、GIGA端末の有効活用を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 「折尾西小学校のきまり」を職員間で繰り返し確認し、児童の規範意識を高める指導に取り組む。
- 望ましい生活習慣や家庭学習について、学級活動の時間に見通しをもつ機会を設定したり、学校通信等で保護者へ啓発したりして、一層の充実を図る。また、児童の継続的な取組を称賛して、自ら学ぶ意欲を高められるようにする。
- 情報リテラシーの学習を継続し、自他を傷つけない活用の仕方や活用時間の妥当性について児童が主体的に考え、家庭でのルールづくりとその遵守に努められるようにする。